

## 二国間交流事業 セミナー報告書

令和3年12月27日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]  
国際医療福祉大学・保健医療学部理学療法学科

[職・氏名]  
講師・韓 憲受

[課題番号]  
JPJSBP2- 20208805

1. 事業名 相手国: 韓国(振興会対応機関: NRF)とのセミナー

2. セミナー名

(和文) サルコペニアに対するリハビリテーション診断および理学療法介入

(英文) Rehabilitation Diagnosis and Therapeutic Intervention for Sarcopenia

3. 開催期間 令和3年11月26日～令和3年11月28日(3日間)

4. 開催地(都市名)

オンライン + 大田原市

5. 相手国側セミナー代表者(所属・職名・氏名【全て英文】)

Eulji University・Associate Professor・MyungChul Kim

6. 委託費総額(返還額を除く) 1,085,988 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	18名	12名
相手国側参加者等	62名	0名

参加者リスト(様式 B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

\* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在等、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を本委託費で負担した場合となります。

## 8. セミナーの概要・成果

(1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況等。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載して下さい。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。)などありましたら、それも記載してください。)

### ■ セミナーの目的

1. 健康長寿のために必要なサルコペニアの現状把握と予防および介入方法の相互検討
2. 若手研究者を交えてのサルコペニアを中心とする日韓共通の高齢者の健康問題の認識と共有
3. 高齢者のサルコペニア予防による運動機能維持、日常生活能力維持・改善、そして健康増進と維持に必要な日本、韓国、中国を中心としたアジアでの役割の認識
4. 日韓両国の高齢者の健康長寿研究における協力体制構築

上記の項目を達成することを目標に日韓両国の理学療法士を中心にセミナーを開催した。

### ■ 実施状況

コロナ禍の影響で韓国訪問での対面によるセミナーの開催が困難であった。そのため、オンラインシステムを構築しての開催となった。セミナー開催においては専用のホームページを作成し、ホームページからセミナーのプログラム、抄録集等の情報を入手できるようにした。また、セミナー専用のホームページからは各々の講演および演題のタイトルに該当動画のリンクを個別に貼りつけた。タイトルをクリックすることで該当動画を視聴できるシステムを使用した。オンライン参加の他に日本では国際医療福祉大学の理学療法学科にセミナーの会場を設置した。会場には日本の研究者に限定して集合し感染拡散防止策を講じながらセミナーを開催した。

### ■ 第三国からの参加者

日本と韓国以外の参加者としては、中国からは講演が1件、演題発表が2件行われ合計8名がオンラインで参加した。講演では整形外科の高齢患者を例に臨床での協力体制について紹介を行い高齢者の運動機能の健康な状態での維持について国を超えての認識を共有した。モンゴルからは2名が参加した。

### ■ 関連行事

- ・国際懇親会:オンライン会議システムによるセミナーの閉会式後にオンラインでの国際懇親会を行った。
- ・日本の研究者の懇親会:国際懇親会終了後に現地参加者による対面での懇親会および会議を開催した。

(2) 学術的価値(本セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

日本の研究者からは体幹機能維持に重要な腹横筋と発声量との関連についての研究、高齢者のサルコペニアと鬱に関する研究、高齢者の呼吸筋トレーニングの効果に関する研究、失禁関連因子などの研究、糖尿病と骨格筋量に関する研究、体組成、転倒歴と下肢機能、不活動と筋の状態との関連研究などが発表された。韓国研究者の発表では高齢者のサルコペニアの早期予防などに関わる研究、歩行機能に関わる骨盤のマルアライメントを評価する手段の研究や国際基準のWHODASを使用した国際的共同研究などが発表された。中国においては脳卒中患者の上肢機能と機能的電気刺激に関する研究の発表などが行われた。

(3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

- ・両国におけるサルコペニアの現状把握と予防および介入方法を相互検討することができた。
- ・若手研究者の専門分野での交流を通して学術的共通点や相違点を認識するきっかけとなった。
- ・高齢者のサルコペニア予防による運動機能を維持していくことは文化的、社会的状況が異なる日本、韓国、中国を含むアジアにおいても日常生活能力維持・改善をする上では同じであることが共有できた。

- ・研究環境は国によって文化的、社会的環境などが異なるため研究環境の把握の重要性の認識ができた。
- ・健康寿命延伸のために理学療法分野での国際的共同研究に協力していく事に合意した。

(4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

日本、韓国、中国において高齢化社会を支えるための重要な手段の一つが各個人の身体的、精神的、社会的健康の維持の実現であることが確認された。高齢化社会を支えるための身体的健康の維持にはサルコペニアを予防する必要性を共通認識として再確認した。今回のセミナーでの研究には運動器の専門家である理学療法士の予防医学的分野での更なる研究および啓蒙活動の必要性が示唆された。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

始めて国際学会に参加する若手研究者の大学院生への貢献としては、国際学会への参加のためのプロセスを直接体験しながら研究成果を英語で発表する事への支援ができた。小規模での国際学会での成功体験を得られたので、今後のより大きい規模の国際学会への参加が容易になると期待できる。複数回の国際学会参加経験の若手研究者には国際学会での研究発表および座長の役割を果たしたことで多様な研究を批判的かつ客観的に捉える実践の場を提供できた。

(6) 将来発展可能性(本セミナーを実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

#### ■ 国際懇親会にて得られた合意

- ・セミナー開催の継続: 来年度に韓国でのセミナー開催が決定された。日時は今後の連絡により決める。
- ・国際共同研究の可能性: 日本と韓国および中国の研究者の3か国の研究者において、国際共同研究を行うことに対する協力の意思があることが確認できた。

(7) その他(上記(2)~(6)以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記述してください)

今回のセミナー開催時に発行した抄録集は国立研究開発法人科学技術振興機構の科学技術情報発信・流通総合システムで(J-STAGE)公開を行った。DOI: [https://doi.org/10.1589/jpts.33.Suppl.1\\_S1\\_1](https://doi.org/10.1589/jpts.33.Suppl.1_S1_1)